



「瀬戸内・山陰フェア in 台湾」の開催

鳥取県文化観光局国際観光推進課係長 瀬良 知紀

■ 目的

山陰山陽地域（鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県、愛媛県）では、6県共同で台湾人観光客誘客事業を実施しており、台湾人観光客が年々増加しています。しかし、この度の東日本大震災の影響により当地域を訪れる台湾人観光客が激減しました。このような状況の中、山陰山陽地域が共同して台湾現地で物産観光展を開催することで、安心・安全のメッセージを発信し訪日旅行への信頼の回復と台湾での知名度向上を図るとともに、当地域のポップカルチャー素材（台湾で人気のある日本の漫画、映画等に由来する観光地）を活かしたモデルコース作りを進めることで台湾の旅行会社や一般市民に対して新たなテーマ性のある定

番旅行目的地として当地域を位置づけてもらうためのブランド化戦略を展開しました。

なお、実施に当たっては、(財)自治体国際化協会の平成23年度海外経済活動支援特別対策事業の助成を受けました。

- (2) 参加者 鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県、愛媛県各県担当者、民間事業者15社
- (3) 実施場所 統一阪急百貨（台湾台北市内大型商業施設）
- (4) 内 容

イベントでは各県のポップカルチャー素材のPRを行うため、6県共同の観光PRコーナーを設置し、各県の観光PRを行いました。また会場で現地台北日本人学校をはじめとする和太鼓演奏等により日本の雰囲気醸成を行い、会場全体を日本の縁日を想定したデザインとし、日本物産販売への関心を高めました。また、山陰山陽地域の民間事業者15社による物産販売を実施しました。特に台湾人向けに日本の食や美といったテーマが人気でした。

また、この事業を通じて山陰山陽への誘客を図るために、各県担当者会議等を通じて山陰山陽に所在するポップカルチャー素材を洗い出し、現地プロモーション用資料としてモデルコースを作成、台湾の旅行会社や一般市民に旅行商品造成の働きかけを行いました。現在、台湾大手旅行社が、山陰山陽地域への旅行商品企画を進めています。

■ 事業実施における課題

事業実施における課題として、ポップカルチャー素材の活用において、素材は魅力的なものであっても権利関係のために素材を自由に使えない事例が発生しました。事前に関係機関への申請により、使用許可を得ることができる場合もありますが、特にジブリ作品の関連地域等は、明確にその場所を作品のモデルにしたという言及がなされていないものもあり、PR素材としての活用が容易では



瀬戸内・山陰フェア in 台湾 会場

■ 事業概要

平成23年12月8日～14日の期間に台湾で次のとおり山陰山陽地域の物産観光展を実施しました。

- (1) タイトル 「瀬戸内・山陰フェア in 台湾」

| 類型 | 活用 | 例 |
|---|---|---|
| 作者や関係者の出身地やゆかりの地として、記念館・モニュメント等を作って観光地化されている箇所 | 作者にとっても出身地等への思い入れがあり、観光素材として活用しやすい。 | ・水木しげる記念館（ゲゲゲの鬼太郎ほか） ・青山剛昌ふるさと館（名探偵コナンほか） ・岩国市（島耕作シリーズ） |
| 映画やドラマのロケ地となり、作品の中で露出した施設等が観光スポットとなっている箇所 | ロケ地であると同時に観光素材としての活用を前提にロケ地であることの表示や観光地化されている場合があり、観光素材として活用しやすい。 | ・一畑電車（RAILWAYS） ・仁摩サンドミュージアム（砂時計） ・大洲の町並み散策（東京ラブストーリー） |
| 作者がその土地を訪れたなど作品等の内容からの推測により、その場所が観光スポットとなっている箇所 | 制作者側からお墨付きがある訳ではなく、観光素材として活用しにくい。 | ・湯原温泉、道後温泉（千と千尋の神隠し） ・鞆の浦（崖の上のポニョ） |

ないものもありました。ポップカルチャー素材ごとの類型化については上表のとおりになります。

■ ポップカルチャーによる広域連携

日本各地にはポップカルチャー素材が点在しており、特に台湾の若い世代の人々は漫画やドラマをはじめとする日本のポップカルチャーに関心を持っています。日本のドラマや映画は、複数箇所でも撮影されたものも多く、ドラマや映画を題材として日本全国の共通したテーマのポップカルチャー素材を結びつけて磨き上げを行い、日本全国を周遊するポップカルチャー素材巡りの旅行プランを提示することが可能だと思われます。また共通した素材を通じて複数の関連地域が共同プロモーション活動を展開することも有益と思われます。

■ 今後の展開

- ①本事業で作成した素材を引き続き6県共同のプロモーションや各県がプロモーションを行う際に活用して、現地旅行会社やメディアなどに旅行商品造成や情報発信等を働きかけていきます。
- ②平成24年に鳥取県で開催される「国際まんが博」「国際マンガサミット」を契機としてポップカルチャー素材のさらなる磨き上げを行うことで山陰山陽地域をポップカルチャー旅行のメッカとして旅行目的地化していきます。
- ③各県の実施しているポップカルチャーを活用した受け地整備施策について情報共有することで各地域が一体となった外国人観光客受け入れ体制構築を目指します。



山陰山陽観光ブースでの観光PR



山陰山陽企業による物産販売